

---

待っていたよ。

ラフティー

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

待っていたよ。

### 【NZコード】

N9831D

### 【作者名】

ラフティー

### 【あらすじ】

ふと、カレンダーを見るいつしか友達と約束をしていた日。一人約束の場所まで・・・・・。

慌ててパジャマを着替えて家を飛び出す私

「あつ

ふと、カレンダーを見る  
小さく印が付いていた。

【3時に公園の木の下のベンチ、5時まで待つ】

「今日は何の日だろ?」

今日は春なのに寒くて布団に包まりながら携帯をいじっている私

母「どうしたの？」

母が呼んでいるが私はそのまま走り出る

だが、

ザアー

「雨だ。」

ぱらぱらと雨が降っている。

歩くのが遅い私には公園まで15分ぐらいかかってしまう。今は1  
5:47···頑張ろ 私は早歩きで公園に向かった。

急いでいたため、雨の日は履かない引きずれるジーパンを必死にあげて、信号のない道路をばたばたと早歩き。

少し風が出てきた、やっと公園に着くと約束をした友はまだいない

雨の日だからか人は少ない。公園の中を私は少し歩きベンチに腰を下ろした。

しばらく周りを見渡し、携帯を取り出す。

「まだ5分か・・・。」

公園に来て少ししか経っていないのに、すぐ長い間待っていた気分がする。

きっと恋愛しているんだ

ただの口約束だし

向こうにも色々予定がある

そう思つだけで実際私は帰らんとしない。

何を待つているのか？

信じたいのか？

無理に決まつている。でも心のどこかで期待している自分がいる。

手がかじかんできた・・頬は赤くなっていた。  
私は雨の音に耳を傾けた

バ  
シ  
ヤ

何の音だろう?  
音がしたまづへ田をやると、

『来てくれたんだ。』

息を切らせながらゆくつとじへ歩いてくる見えのある顔。

髪は茶髪になっていた、しっかりと女のすらしく化粧をしていて少し、身長は伸びていた。

傘をわざわざこへ来たせいでジャージが濡れている。部活帰りらしい。

『先生の用事で部活4時で終ったんだよ。間に合つてよかつた。』

ニッコリと笑う友に思わず私も頬が緩む。

しばらく公園でお互いの学校生活や部活などの事を話、一人で帰ることにした。

『今日バイトなんだ、今度来てね。うちレジやつてこるから。』

「うん、必ず行く。」

そして、彼女はバイトに行つた。雨はさうに酷くなつていってすぐには彼女は見えなくなつた。

一人家へと歩き出す。

携帯を取り出し、メールを打ち出す。でもそれは友達に送るものではない。今日あつた出来事を打つてはいる自分がいた。

そして、まだ彼女との約束は始まつたばかり。

次に会うのは成人式。

でも、それはまだ

少し先の話。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9831d/>

---

待っていたよ。

2010年12月18日14時25分発行